

私の履歴書

釜本 邦茂

⑬

が、1-0で勝ったマレーシアは結局4戦全勝で凱旋帰国する。フィリピン、台湾に大勝した日本は韓国との最終戦も1-2で敗れた。明るい話

し、でついに念願の初優勝を遂げた。入社時の「5年で日本一になる」という約束を実現できた。個人的にも2年連続で得点王になった。

1971年9月の予選に備え、夏の欧州遠征はドイツのボルシアMG、今は吉田麻也君がいるイングランドのサウ

は19歳の永井良和が韓国戦で点を入れたことくらい。マレーシアには前年のアジア大会で勝っていた。帰国す

初タイトルの69年元日の天皇杯から、ネルソン吉村に続くブラジル人でJSL初の黒人選手でもあるカルロス・エ

サンプトンなどと強化試合を重ねた。私の2得点でデンマークとは2-3、アイスランドには杉山隆一さんの2得点で2

ア大会で勝っていた。帰国すると「首脳陣と選手がうまくいってなかったらしいな」と

てくれた。練習場を芝に変えてナイター設備をつけ、寮では夕食を食べられるようにする。そういう環境整備にも

夢の悪夢

10で勝った。欧州のA代表に勝ったのは36年ベルリン五輪のスウェーデン戦以来だった。

ル。GKの横山謙三さんがワンバウンドで取ろうとしたら落下地点に水たまりはなく、大きく跳ねて頭上を越えた。それをアマド・バカルが無人のゴールに蹴り込んだ。圧倒的に押し込む中で80分過ぎ、

ステベスを加えていた。71年は日系ブラジル人のジョージ小林も補強。ヤンマーはこういう面で常に挑戦的だった。

3大会連続出場を懸けたミユンヘン五輪予選は韓国に5

岡野俊一郎監督と八重樫茂生コーチは代表から去った。岡野さんは監督在任中、胃に二

鬼武健二監督、加茂周コーチと語らい、ラテン・スタイルを志向したのも当時として

チームが集まり1枚の切符を争った。出場権を手にしたのはマレーシア。9月23日の初

またもアマド・バカルに連敗され万事休した。三つどもえになることを期待し25日は生まれて初めてソ

置くのが普通の時代にゾーンで守るDFの前に守備的MF

戦で日本が0-3で負け、調子に乗ってしまったのだ。

代表で失意を味わう一方、ヤンマーは日本リーグ(JSL)

のジョージ小林を置き、つなぐサッカーを目指した。以前触れた、午後からの練習も画期的。午後練習で残業

日本を狂わせたのは台風の

ウル運動場で韓国を応援した

りするものだったと思う。(日本サッカー協会顧問)

2勝2敗五輪出場逃す

日本リーグ、念願の初優勝



吉供 鬼武監督、安達貞と提至マネジャーらが奔走してくれた。それは純粋な実業団スポーツの枠組みからは外れていく行為だったのかもしれない。Jヤンマー村